



## 風化・形骸化させない安全の取組み



北陸電話工事株式会社

### 1. はじめに

北陸電話工事グループは、2012年以降、未来永劫人身事故を絶対に発生させない強い決意のもと安全最優先に1人ひとりが日々取り組んでいます。

日々の業務においては、統合マネジメントシステム (ISO45001・ISO9001・ISO27001) の基本理念である「責任ある仕事に徹し、お客様の信頼を得る」を基に「安全衛生、情報セキュリティの確保と品質の保証を徹底し、お客様に満足いただける製品とサービスを提供する」を行動指針として取り組んでいます。

今回、北陸電話工事グループにおける「基本動作の徹底、安全ルールの遵守」「安全衛生意識の高揚」「北陸電話工事独自システムを活用した安全・品質への取組み」について紹介します。

### 2. 基本動作徹底、ルールの遵守

#### (1) 2WAYコミュニケーションによる基本動作の徹底

2013年度より高所作業車の基本動作の徹底を図るため、元請会社と作業員間の2WAYコミュニケーションを全社の取組みとして開始しました。

その後、2018年7月にNTT様の最重要危険工程における2WAYコミュニケーションの追加に伴い、グルー

プ内の安全目線の統一を図る必要があることから、北陸エリアの2WAY業務を金沢（品質管理センタ）に集約しました（図1）。

作業員が安全作業に徹するためには、元請会社と作業員のコミュニケーションが重要であることから2WAYセンタ内の体制構築と対応の標準化とスキル向上を図りました（図2）。

- ・対応が集中した場合、現場を待たせない支援体制の構築と報告タイミングの調整
- ・さまざまな場面を想定した対応スクリプトと対応者のレベルの統一
- ・全国事故速報や2WAYにより作業を止めた事例の共有などによる対応者の安全意識向上
- ・施工管理者へ作業員報告状況をシステムより抽出、フィードバックをして安全への指導

作業員側では、連絡先が統一されたことで手間の簡素化、また、2WAY対応者が複数いることにより単一的な相互対応とならず安全基本動作の形骸化抑制にもつながっています。

#### (2) SQシステム（安全品質管理システム）による月一パトロールの徹底

構造改革ガイドラインでは、全班に対し月1回以上の安全パトロールの実施が定められています。

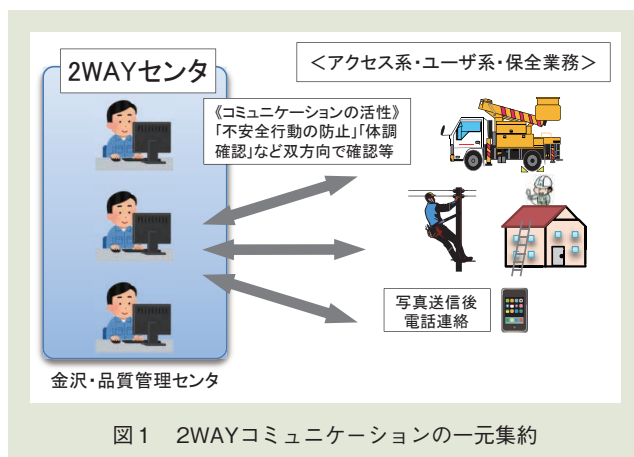


図1 2WAYコミュニケーションの一元集約



図2 2WAYコミュニケーション



パトロールでは各施工現場をリアルタイムで把握する必要があり、ユーザ作業班ではモバイル端末を活用し、保守作業班ではGPS端末を配備し位置情報の可視化を行っています。

また、長期パトロール未巡視班については、SQシステム（安全品質管理システム）を用いることで容易にリアルタイムで把握することができます（図3）。

No	一次施工会社	安全衛生責任者	直近点検日	経過日数	総合評価	直近詳細
1	株式会社 ○○○○	○○○○	2019/10/23	36	B	19-10-石専-081
2	株式会社 ○○○○	○○○○	2019/10/23	36	B	19-10-石専-082
3	株式会社 ○○○○	○○○○	2019/10/28	31	B	19-10-石専-091
4	株式会社 ○○○○	○○○○	2019/10/29	30	B	19-10-石専-034
5	株式会社 ○○○○	○○○○	2019/11/01	27	B	19-11-石専-005
6	株式会社 ○○○○	○○○○	2019/11/01	27	B	19-11-石専-001
7	有限会社 ○○○○	○○○○	2019/11/01	27	B	19-11-石専-004
8	株式会社 ○○○○	○○○○	2019/11/01	27	B	19-11-石専-002
9	株式会社 ○○○○	○○○○	2019/11/05	23	B	19-11-石専-012
10	株式会社 ○○○○	○○○○	2019/11/06	22	B	19-11-石専-016
11	株式会社 ○○○○	○○○○	2019/11/06	22	B	19-11-石専-015
12	株式会社 ○○○○	○○○○	2019/11/07	21	B	19-11-石専-025

図3 安全パトロール実施管理

ムで情報の共有を行うとともに、器具の劣化状況についても組織単位で把握できる仕組みをつくっています（図5）。

また、各作業者が保有する資格情報や施工車両情報についても、情報の共有化を図っています（図6・7）。

No	点検品	数値	点検数	未点検数	不良数
1	高圧圧縮機 保安帽	・電線、劣れ等は「ないか?」	40	40	0
2	柱上安全帯 本ロープ	・ロープや結合部、劣化は「ないか?」 ・方丈の取付けは「ないか?」	34	34	0
3	柱上安全帯 補助ロープ	・ロープや結合部、劣化は「ないか?」 ・方丈の取付けは「ないか?」	34	34	0
4	■ 柱上安全帯 補助ロープ(フック大・小)含む	・ロープや結合部、劣化は「ないか?」 ・方丈の取付けは「ないか?」			
5	■ 柱上安全帯 補助ロープ(巻き取り式)	・ロープや結合部、劣化は「ないか?」 ・方丈の取付けは「ないか?」			
6	■ 屋内安全帯	・ロープや結合部、劣化は「ないか?」 ・方丈の取付けは「ないか?」			
7	■ 懸吊安全帯	・ロープや結合部、劣化は「ないか?」 ・方丈の取付けは「ないか?」			
8	ロープ 安全器	・破損、錆び等は「ないか?」	23	23	0
9	ロープ 腰環	・破損、錆び等は「ないか?」	23	23	0
10	ロープ 操作棒	・破損、錆び等は「ないか?」	15	15	0
11	■ スカイロック	・シャフトに亀裂等は「ないか?」			
12	ヘルメット	・ヘルメット亀裂等は「ないか?」	10	10	0

図5 安全装備品 月次点検

(3) アルコールチェックの徹底と励行

安全施工サイクルの確実な履行に向け、車両運転前のアルコールチェックを義務化し、現場KY時にチェック結果を作業指示書へ記入することとしています（図4）。

実施チェック結果を作業指示書に記入

証拠

図4 アルコールチェックの実施案内

No	資格名	取得日(交付日)	有効期限	合格判定	登録番号	添付ファイル	ポイント
1	ビルメンテナンス施工技術者	2018/02/13		合格	0033120402301	藍	250
2	LAN/WAN博士	2018/01/08		合格	2017813080413	藍	40
3	LAN/WAN主任技術者	2018/04/01		合格	20182813004048	藍	40
4	RSTU-(術)	2018/08/28		合格	大員4185号	藍	250
5	アセスマシナ	2019/09/06	2022/09/31	合格	北陸-000284		*250
6	チェーンソー以外の振動業務安全衛生教育	2019/07/16		合格	201831504012	藍	40
7	安全衛生推進者養成(初任等)	2011/11/17		合格	金沢第1-2507号	藍	40
8	監理技術者養成(認定通)	2017/10/17	2020/04/16	合格	第00002709410号	藍	*50
9	危険物取扱者 丙種	1987/12/25		合格	第302-1508号	藍	250

図6 有資格 管理状況

図7 会社車両 管理状況

3. システムによる安全・品質の向上

(1) Eruシステムによる安全主要装備品の点検と機能維持

安全作業において正しい器具の使用とその機能維持が必要となります。北陸電話工事グループでは、主要装備品の点検結果を“Eruシステム（協力会社リソースシステム）”へ登録し、元請会社と協力会社でリアルタイ

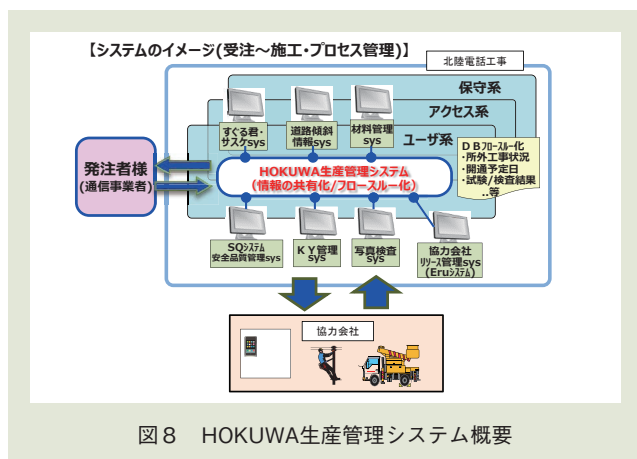
## (2) 「HOKUWA 生産管理システム：北話DX」による施工品質の向上

北陸電話工事グループでは、施工における受注から完成までを「情報の共有化」「フロールー化」を行い、全工程を一貫して管理する「HOKUWA 生産管理システム：北話DX」を運用し作業を実施しています（図8）。

システムは、発注者様、当社、協力会社とそれぞれの部署で発生する情報をリアルタイムに共有しています。

例えば、アクセス施工部門では後工程である開通予定日が把握でき、アクセス施工計画など容易に立てることが可能となっています。また、サービスオーダ工事ではお客様からの問合せに対し、アクセスから宅内までの一連工程が把握できるため早期回答が可能となることで間接稼働の削減を実現しています。

また、全数写真検査業務（アクセス・ユーザ・基盤等）においても「HOKUWA 生産管理システム」を用い業務集約しています。システムではアクセス工事の設計段階の工程情報と検査箇所の括り付けができており正確な写真撮影と少ない検査稼働でより良い工事品質を得ることができます。また、NTT様における抜き取り現況調査の稼働削減にもつながっており、システムによる業務の効率化と施工品質の向上を図っています。



## 4. 安全衛生意識の高揚

### (1) 風化防止（高所作業車）危険体感研修・特別教育等の自社実施拡大

2012年より安全への取組み施策としてNTT様と連携し「危険体感研修」を実施し、人身設備事故の風化・形骸化の防止に取り組んでいます（図9）。

社員研修では、職長研修・高所作業車・酸素欠乏主任

者など小規模研修は自社で実施していましたが、基本動作の順守徹底を目的に、現場ニーズの高い研修については、内製化を実施し多くの作業者が受講できる環境を作っています。主な研修（図10）としては

- ・ 振動工具特別教育
- ・ 研削といしの取替え等の業務にかかわる特別教育
- ・ フルハーネス特別教育

研修においては、まず自社でインストラクターを育成し、その後グループ内の研修を行っています。その他、交通誘導員（自家警備）研修など施工時の安全性確保にも努めています（図11）。

安全運転研修会では、グループ内のドライブレコーダの実映像を用い、より身近に感じる研修を行い、また、会議ではTV会議システムを使用することで多くの社員が受講できるようにしています（図12）。







図11 交通誘導員研修



図13 パトロール結果評価会議



図12 安全運転研修会



図14 安全ポスター

## (2) 安全パトロール結果の見える化による1人ひとりの安全意識の成熟

これまでの安全パトロールでは、巡回した結果を文字・口頭で伝える個別指導が中心でした。そのため関係者の心に強く残る事が少なく、時間とともに風化・形骸化されるのではないかと危惧しており、安全に関する見える化を推進し、パトロール者、作業員への安全意識の向上を図りました。

パトロール者に対しては、パトロールで発見した不安全状況（指導前）と是正状況（指導後）の写真撮影を徹底させ、北陸内の安全担当者の月次評価会議等で指導内容や推奨内容を議論し、パトロール者の目線・指導内容の向上と標準化を行い意識の醸成を図っています（図13）。

作業員に対しては、各種会議等（部課長会議、安全衛生協議会、安全衛生委員会）で不安全事象を写真やビジュアル映像を多く用い、安全意識の向上を図っています。

また、グループ内の全社員に対しても安全意識の向上を目的に各トイレへの安全ポスターの掲示も実施しました（図14）。

安全ポスターは四半期ごとに作成し、パトロールのBefore・After写真だけでなく、安全へのポイントと解説を理解しやすいように盛り込み、全社員の安全意識の高揚を図っています。

## 5. おわりに

日々の業務遂行において元請会社と協力会社とのコミュニケーションが安全と品質を確保する重要な鍵です。北陸電話工事グループでは、過去の経験から培った2WAYコミュニケーションや現場に優しい安全システムを十分に活用し、安全の取組みを風化・形骸化させないように、安全マネジメントの確実な実践を通して、

**今後とも ONE-TEAM の精神で  
事故「0」に挑戦していきます。**